**6.12朝米首脳会談に関するNO FENCE声明**

2018年6月12日，史上初の朝米首脳会談がおこなわれ，両首脳は共同声明に署名した。しかし，この共同声明に「人権」の文言はなく，北朝鮮における深刻な人権弾圧をやめさせる手がかりを全く見出すことができない。そればかりか，体制保障や経済協力の形で，金正恩の恐怖体制を支援する動きがつくられようとしている。

強制収容所をはじめとする金正恩政権の人道犯罪が続くかぎり，北朝鮮の民衆に「平和」な生活が訪れることはありえない。したがって私たちは，この共同声明を，朝鮮半島に平和をもたらすものと評価することはできない。

そもそも，「非核化」が最大の焦点となった今回の朝米対話の動きは，現体制を維持・強化しようとする金正恩政権の目論見にそのまま従ったものであった。核・ミサイルの軍事的挑発によって危機を生み出し，「非核化」に関心を集中させたうえで対話に乗り出すまでが，首尾一貫した一連の戦略パッケージである。その「成果」として金正恩政権は，自ら犯している人権弾圧から世界の目をそらすことに成功し，さらに現体制を維持・強化するための政治経済的資源をも引き出しつつある。

もちろん，金正恩政権の目論見に合致しているからといって，対話すること自体が誤りとは限らない。あえて対話に臨むことで，交渉を利用して人権改善の要因を押し込むという戦略も残されている。しかしトランプ政権が実際にやったことは，朝米合意を成立させて自らの「成果」を誇示するために，金正恩政権と手を結んで，人権問題を単なる“余談”におとしめることだった。現時点では，そう評価するほかない。

最大の焦点とされている「非核化」も，北朝鮮の人権抑圧体制が続くかぎり，演出以上のものにはならないだろう。情報統制の徹底された現体制のもとでは，秘密裏に核開発を続けることなど容易である。私たちがたびたび訴えてきたように，金日成・金正日・金正恩の3代にわたる核開発は，核・ミサイル施設における政治囚の強制労働と抹殺を含む，人民の甚大な犠牲の上に成り立ってきた。北朝鮮の人々に言論の自由があれば，このような核開発は不可能である。

だから，人権の実現は非核化の前提条件であり，人権問題こそが最優先課題にならなければならない。人権問題を脇において，「非核化」が最優先課題だと思い込むこと自体が，危険な誤りといえるだろう。トランプ政権のみならず，日本政府やメディアに対しても，私たちは軌道修正を求めたい。

これから始まるという「非核化」の過程を，単なる演出に終わらせないためにも，北朝鮮に人権を実現することが緊急の課題である。核査察だけでなく，人権査察，強制収容所の査察を遂行すべきである。強制収容所をはじめとする金正恩政権の人権弾圧をやめさせるために，国際社会が一丸となって努力するよう，私たちはあらためて呼びかけたい。

人道犯罪に手を染める独裁者の「主権」を尊重し，声なき民衆を見殺しにすることを，「内政不干渉」の名分で正当化してはならない。人権に国境はない。今こそ国際社会は「保護する責任」の原則にもとづき，金正恩政権の暴政に果敢に干渉すべき時である。

2018年6月13日　NO FENCE